

# 86年の歩み

86年の人生を、時系列にまとめて発信します。

小学生になるまでは、今は呉市に編入されていますが、大崎下島の大浜に住んでいました。ピカドンにやられたという小母さんのところへ、牛乳を運んだ事や、人を見たら「昭和15年2月2日生れ、乃美友治郎です」

と言って歩く、調子者だったこと  
とや、学校へ兄の傘をも持って  
行って、先生に褒められたこと  
などを、覚えています。

2025・12・27

前の原稿を書きましたら、急に記憶がよみがえり、様々な事を思い出しました。列举します。 父親と一緒に磯釣りに行ったのですが、帰る時は満潮で海

の中を歩いた事。空襲があり、  
近所の人と高台のお寺に避難し  
たこと。婦人会と称して、母親  
たちが竹槍の訓練をしたこと。  
水陸両用車が砂浜に上陸したこ  
と。兄の話だと8月6日には  
「ピカッ」と光ったとのことで  
すが、私の記憶にはありませ  
ん。

2026・1・1

昭和20年12月、大浜から漁船に家財道具を積んで、安芸津町三津を目指しました。船は海面すれすれで、大風が吹けば、転覆するのではないかと思わせるほど、危ない状況でした。それでも何とか目的地に到着。そこから大八車に荷物を積んで、蚊無へ向かいました。私は幼児なので何もしていませんが、父母は大変だったでしょう。何故、蚊無かと言うと、父親が職業軍人で敗戦とともに退役?していたのですが、生活を維持するために、開拓団に参加していました。その場所が蚊無だったので

す。ここから貧乏生活が始まります。

2026・1・5

昭和21年の春、小学生になりました。担任は女性の先生でした。3年生までお世話になりました。遠足の時「派手な弁当」は持ってこない様にと注意されたのですが、言った本人が巻きずしをもってきたのです。(お母さんが作ったのでしょう)。それで、大変恐縮されて、皆に食べて頂戴と言われました。私はと云えば、相変わらず調子者で、「よく言えば積極性を発揮していました。学芸会の演奏で

「大太鼓をやりたい」と言って困らせたりしていました。ホームルームで皆で、菓子を持ち寄りました。私のはなかなかの量でしたが、分けて貰った物が少なかったので文句を言ったら、叱られました。

2026・1・11 小学生

の年長組になった時、私の人生に影響を与える出来事がありました。先生からテストの結果が発表され、私が一番だとのことでした。自分は出来る人間ではないと思っていたので嬉しかったです。

少しばかり自信を持てるようになりました。

2026・1・24 年長組になると蚊無という地域から集団で登校するのですが、守るのは私たちになります。弟も年少組で入学して来ました。ある時、弟の友達が来て弟さんが泣いていると言うので行ってみると「足が冷たい」とのことだったので私が作った「草履」を履かせました。落ち着いたので自分の持ち場へ帰りました。貧乏は嫌だなと思ったのは、その時が初めてでした。

2026・2・2 昭和 27 年、中学生になりました。春休みの時、母親から

「勉強しなさい」と言われ少し勉強しました。入学時に試験がありましたので、この時の勉強が生きたのか、級長に指名されました。自慢ではなく、この事も自信になりましたね。住まいも駅から 7km 程の「奥」へ引っ越したため、足腰が鍛えられ、マラソン大会では 900 名(男子は 450 名)中二番目となり、陸上部で駅伝大会にも出場出来ました。

2026・2・11

3年生になると成績が良かったからだと思いますが、生徒会長に立候補するよう推薦されました。先生の指導も受け、更には1年生の応援演説

も取り付けて、所信表明をいたしました。弁論大会にも2回出場していただいたので、大勢の前で話すことは苦になりませんでした。結果は当選です。このことは私の高校生活を「小さいもの」にしました。生徒会長だったと言う事が足かせになり、自由に行動することが制約されたからです。当時は真面目だったのです。

2026・2・20 高校に入学したときは、142cmでしたので、劣等感を持っていました。それが原因で何をやるにしても、消極的だったので、高校生活がイキイキとしたものには、なりませんでしたね。ただ、

卒業する時には 158cm になりましたので、少しは自信が持てたかな?? 良いことと言えば二人のポン友が出来たことです。卒業後も三人で飲む機会が度々ありました。

2026・3・1

高校生活の中で、忘れられないのが「ノイローゼ」になったことです。今でいう

「潔癖症」の親玉のような症状になり、25才まで苦しみました。25才の時、交通事故にあい、40日入院しました。その時に頭の上部が無い人などに出会い、自分の悩みは「大したことではない」と思えて、こだわりが薄れました。その後も苦しみました。「共存しよう」という気に

なれて、何とか普通に過ごせました。

2026・3・7

高校生活も終りに近づき、就職試験をあちこち受けました。2次試験まで合格し、家庭訪問がありました。駅から7kmのところ自宅がありました。訪問者も歩くわけですから疲れたと思います。最終的な判定はバツでした。もっと駅に近いところだったらどうだったかと思うと、少し残念でした。竹原というところで銀行の試験も受けました。そこでは、貯金がどれだけあるか聞かれ、無いと言ったら、それで即不合格でしたね。もともと国家公務員の試験が本

命でしたから、ショックではありませんでした。

2026. 3・16

国家公務員試験に合格し、無事、郵政省の職員になりました。広島郵政研修所・普通部生となり、一年間、給与を受け取りながら勉強させて貰いました。今、振り返ってみても人生で最高の一年だったと思います。残念なのは母親が脳卒中で倒れたことです。休みの日、安芸津に帰ると兄が迎えに来ていて「おふくろが倒れた」と言いました。家に帰ると布団にもたれて座っていましたので、一安心しました。普通部を無事卒業し、呉市の仁方郵便局に配属になりました。先輩に普通部の卒業生が三人いました。珍しいことです。この郵便局はなぜか優秀な人が多く、後に郵政大学や外国語訓練生を輩出しています。

2026・3・25

21才の時、全逋信労働組合から中国ブロックの討論集会があるので「行って貰いたい」との要請があり、出席しました。皆しっかりしていて感心しました。帰った後、広島県青年部の委員会があり、中ブロに行ったのだから「常任委員」をやるように言われました。仁方の先輩にも相談し、引き受けました。これが私の組合役員の始まりでした。支部改編というものがあり、青年部も改編することになりました。この段取りを常任委員との立場から責任者として、行うことになったのが運のツキですね。

2026・4・5

3年間、青年部の役員をやり  
ましたが、一念発起して  
「中央大学」の通信課程に  
入学し、スクーリングにも2  
年間参加しました。2年目  
には、興味半分で新宿の「キ  
ャバレー・リド」のボーイ  
をしました。丸々勤めました  
ので、褒められました  
ね。25才になった時、支部  
の青年部長や県の常任委員  
になったのを機に通信教育  
から撤退しました。34単位  
は取得していたので、少し

残念でしたが。それから  
全逋の活動に注力し、支部  
の書記長を経て県本部の執  
行委員に選ばれ、専従生活  
が始まります。

2026・4・20

5年経った時、法律の改正により  
専従は5年と定められ、職場に  
帰るか、離職して専従役員を続  
けるかの選択を迫られました。  
迷いましたが離職することを選  
択しました。今、思えばその選  
択はどうだったのか疑問を感じ  
ますが、若かったのでしょう  
ね。今は専従期間の制限もなく

なりました。教宣担当を7年、  
交渉担当を2年勤めました。そ  
の時、このままで良いのかとの  
疑問を持ちました。

2026・4・27

9年間は、それなりに楽しくもあ  
り、やりがいもあったのですが、な  
んか物足りないものを感じていまし  
た。なので、三役の人に「10年間今  
のままでやるのは難しいと思う」旨  
伝えました。次の年には書記長にな  
りました。その後に私の苦しい役員  
生活が始まります。

2026・5・2

広島中央支部の支部長が全

国大会で発言しました。広島からはどの大会も30名以上が参加していたのですが、その支部長は「広島」が発言しないのを寂しく思っていたそうです。それで「業を煮やして」自らが発言したとのことでした。確かにその支部長の言う通りです。参加者の皆さんも寂しかったそうです。そこで、全国大会では「広島の代議員の誰かが必ず発言する」という状況を作る必要を感じ、自分が先頭に立って積極的に発言することにしました。

2026・5・10